

フォーブ

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2018年 春号
第93号



黒塚古墳・桜・龍王山

目次

■ 委員長就任のご挨拶	庄田 尚代	1 ページ
■ 部会長就任のご挨拶	相河 真弓 寺岡 春恵	2 ページ
■ 『鳴門市ユニバーサルデザイン点検会』に参加して	寺岡 春恵	3 ページ
■ 近畿建築士会協議会女性部会企画セミナー	安井 ひとみ	5 ページ
■ 私の好きな・・・杉板天井	岩城 由里子	7 ページ
■ 春の見学会「吉野杉・吉野桜の建物訪問」のご案内		8 ページ
■ 今後の事業予定		8 ページ

委員長就任のご挨拶

庄田 尚代



この度、女性委員会委員長をさせていただくことになりました。私は、2010年平城遷都1300年記念イベントの頃から女性委員会の仲間に入れていただき、先輩方と

一緒にというよりは、はるか後方で様々なイベントなどに参加させていただいています。経験も貫禄も力もなくあるのは不安ばかりですが、2年間頑張りたいと思いますので皆様お力をお貸しいただけますようよろしくお願いいたします。

30年度の女性委員会の新体制については下記の表のとおりです。今年度、部会長に新しく相河さんと寺岡さんに加わっていただきました。年齢は別として女性委員会では先輩ですので大変心強いです。

広報部会は新部会長のもと、広報誌「フープ」で委員会の活動や見学会、勉強会の報告や新しい案内をお知らせすることとHPの更新を行います。また来年度には記念すべき100号が発刊される予定です。そのための準備も進めていきたいと思ひます。

和室研究部会は和室の魅力と和室にまつわる文化を知る機会をつくること、和室の設計に関する知識の共有や専門家や先輩から技を学ぶ場をつくること

◆平成30年度女性委員会新体制

を目標に活動します。伝統的な和の空間で心静かな時間を過ごすことができれば幸せです。

福まち部会は従来のUD部会から部会名が新しくなりました。UDの研究は勿論のこと、連合会福祉のまちづくり部会の活動への参加、全国各地の活動実態の情報収集や関係団体へのアピール、講演会開催等幅広く活動します。

近建女担当は、「くらしとすまいをみつめる」をテーマにセミナー・勉強会を行っている近畿建築士会協議会女性部会と連携し、近畿圏の会員との交流を深めるため積極的にイベントに参加します。

総務部会は毎年恒例の教育・女性・青年の3委員会合同の見学会の準備、参加、会議連絡を中心に活動します。盛沢山の活動内容をご紹介させていただきましたが、一度きりの人生「やりたいことは全部やる」でこれらの活動にぜひ参加いただければと思います。

少し前のことですが、工事監理の現場で年配の現場代理人から「奈良の建築士会の婦人部は活発に活動しておられますね。」と話しかけられ「婦人部？」という言葉に違和感を感じました。最近「女性活躍〇〇」などで建設業界にも多くの女性が就業されていますが、やはり他の業種と比べるとまだ少なく「婦人部」なのが残念です。数年後にはAIに仕事をとられるのではないかとという危機感がありますが、常に人の幸せを願う優しい気持ちと人とのつながりを大切に考える私達女性建築士は、AIになんか負けません。

委員長	副委員長	部会	部会長
庄田 尚代		広報部会	相河真弓
	岩城由里子	和室研究部会	岩城由里子
	武市啓子	近建女担当	山本規子
		福まち部会	寺岡春恵
	杉田数代	総務部会	杉田数代

広報部会長就任のご挨拶

相河 真弓

女性委員会の活動に初めて参加したのは、お茶室の見学会でした。当時大阪で企業に勤め、設計の仕事に就いていましたが、雇用機会均等法からまだ3年目で女性建築士の先輩、といっても2年上の先輩と1年上の先輩が一人ずつおられるだけで、自分の10年後、20年後は全く想像ができませんでした。そんな時に女性委員会で建築の仕事に携わる多くの諸先輩方に出会えたことはとても刺激的で嬉しかったことを覚えています。



当時一人目の子どもがまだ小さく、間もなく二人目の子どもの出産と、否応なしに自分の時間は無くなり、一旦会社を退社し、働き方を見直さなければなりません。自分の意志に関係なく、社会から取り残されたような気分にもなりました。

そんな私に毎号届くフープは、建築の世界に繋がる小さな窓の様なものでした。皆さんの活動に触れることで元気を頂きました。

今回、広報部を担当することになり、次は私が皆さんに元気を送る番なのだと感じています。

お忙しい中、ご協力をお願いする事もあるかと思えます。双方向の情報発信で繋がることができればと思います。微力ですが、どうぞ宜しくお願い致します。



福祉まちづくり部会長就任のご挨拶

寺岡 春恵



昨年度、まちづくり委員会の部会である「防災部会」「景観まちづくり部会」「歴史まちづくり部会」「街中(空き家)まちづくり部会」「福祉まちづくり部会」の各部会活動が始動いたしました。その

「福祉まちづくり部会」の地域リーダーをさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

奈良県建築士会では、これまで女性委員会ユニバーサルデザイン部会が奈良の「福祉のまちづくり」をいろいろな視点で調査し、その内容を冊子にまとめ全国大会でも発表するなど積極的に取り組んでまいりました。



今後は、UD部会と共に、他の部会とも連携し、市民、企業、行政などに我々の活動をアピールし建築士会、建築士として新たな展開に取り組んで

UD部会 冊子

いこうと考えております。

それに先立ちまして、2月に徳島県建築士会主催の「市民と行う 鳴門市UDデザイン点検会」に参加させていただき、市民、行政の方々と一緒にUDデザインについて考える取り組みについて体験させていただき、盛り沢山勉強させていただきました。

今年度は、これまでのUD部会の取り組んでこられた内容をベースに、奈良ならではの「福祉のまちづくり」について皆さんと一緒に考えていければと思っております。

女性委員会や部会の枠を超えて参加できる方、やってみたい方が自由に参加できる部会にできればと考えております。ご協力よろしくお願いいたします。

『鳴門市ユニバーサルデザイン点検会』に
参加して

寺岡 春恵

2月4日に鳴門市で開催されました『第6回
市民と行う 鳴門市ユニバーサルデザイン点検会』
に奈良女性委員会委員長の本保さんとUD部会部会
長の武市さんと参加させていただきました。

奈良では、これまで女性委員会 UD部会を中心
に公共施設などを数々点検し冊子にまとめるなどを
しユニバーサルデザインについて調査する作業を進
めてきましたが、今後の展開を模索していたところ
でした。その時、鳴門市での点検会のご案内をいた
だきぜひ参加し今後の活動の糸口にできればと思い
伺わせていただきました。

当日は、冬の大寒波が近畿・四国地方にも押し寄
せ小雪が舞う中、朝から車を走らせドライブ気分で
徳島へと向かいました。

12時少し前に到着しましたが、徳島県建築士会
の皆様方は、会場である「ボートレース鳴門」で下
見確認を進めておられました。

ボートレース鳴門は、最近リニューアルされ、と
ても美しく清潔感のある建物でバリアフリー化も十
分満たされている建物です。その建物を市民目線で
点検していくというイベント。参加者は、徳島県、
鳴門市などの行政の方々をはじめ中学生から大学生、
またその先生、高齢者の方々、視覚障がいのある方
など幅広い方が参加されおり総勢60名ほどでの
点検会でした。

そのメンバーを3チームに分け点検会の概要やU
Dの基準などについて建築士会の方の説明をお聞き
したのち、チームごとに点検しワークショップをし
て発表するというスケジュールでした。



鳴門市のキャッチコピーは、『気づくこと そこ
からはじまる ユニバーサル』ということで、「い

つでも、どこでも、だれでも」自由に使いやすくな
っているか?をポイントにハード面を確認しながら、
最終的には、ソフト面「お手伝いしましょうか?」
など人と人が支えあい気づいていくことが大切な
のですよ……というご説明をお聞きしてから点
検がスタートいたしました。

私のチームは、Aチームで、まずは改札ゲートへ
移動。車いす試乗や色弱者の方を疑似体験するメガ
ネなどを装着して移動時の問題や壁や床の色などを
確認しました。眼鏡を装着すると壁に記されている
便所のサインが同系色に見え、ほとんど見えにく
くなっている事には驚きました。



券売機の高さ、受付カウンターの高さ、入場した
際のインフォメーションや看板設置の状況などを確
認し問題ないように思えるものが、あらゆる目線で
点検することで良いと改めて思う部分と、そうでな
い部分が参加されている方々から次から次へと意見
が出てきました。

建物の内部に入り食堂、男女トイレ、多目的トイ
レ、授乳室などへ移動。オストメイトや女性への配
慮が施されていることに関心を寄せながらも、その
設置場所やアプローチについては、厳しい意見が聞
こえてきました。

また、1階には屋外に出て間近に観戦できるスペ
ースがあるのですが、その場所への車いすでの移動
は難しいものでした。



次に、2階の屋内観戦場所へ移動。広く清潔感が
あり気持ちの良い空間づくりではありましたが、そ
れぞれの目線では、いろいろ気になる点がささやか
れていました。ご意見の中には、UD目線とは少し

違う建物スペースの活用についても意見があり「気づき」が多方面に及ぶところもこの点検会に意味がある様に感じました。

そして、駐車場に移動。ここで私は、車いすを試乗させていただきスロープを下ったのですが、その怖いこと……。まっすぐに降りれず、スロープの立上りにぶつかって止まることができました。立上りの大切さを実感です。



とても広い駐車場は、移動しやすいように思えるのですが、点検してみると車いす利用者用駐車スペースまでのアプローチや場所、また、全体の水勾配などについて意見がでておりました。

全てを点検後、ホールへ戻りチームごとのワークショップが行われました。良いと思った点、気になる点などを付箋で色分けしそれぞれ記入し、それを発表しながら準備いただいている模造紙に貼っていき意見をまとめていきました。



新しくバリアフリー化も出来ている建物ではありますが、点検会に参加したことでさらに厳しい市民目線の意見が出てきました。

終了後、テーブルごとで代表者を決め、結果をチームの中高校生を中心に発表し終了いたしました。

今回参加させていただき、まずは、参加者の多さやその幅広さにびっくり致しました。また、建築関係の者だけでなく市民の方々と一緒に点検させていただくことで私たちは、新たな視点を教えていただいた様に思います。

そして、市民の方々は、今後、UDを心掛けながら町や施設を見ていくことと思われ、その目線が町を住みやすく快適な場所へとしていくきっかけにな

って行くのだろうと感じました。



私たちは、この徳島県建築士会の取り組みを体験させていただき、今後、奈良でも同業者の枠を超え、たくさんの方々と一緒に、ユニバーサルデザインについて考えていける機会を持てればと思います。

また、奈良は古い寺社仏閣が観光スポットとしてあり観光中心の町でもありますので奈良ならではのユニバーサルデザイン、まちづくりを模索し考えてつくっていければと帰りの車の中で盛り上がりました。

本当にいい体験をさせていただきました。

徳島県建築士会の皆様のチームワークの良さや温かさにすっかり甘えてしまい素敵な一日を過ごさせていただきました。

これからは、この経験を活かし奈良でも頑張っていこうと思っております。

近畿建築士会協議会女性部会企画セミナー
安井 ひとみ

去る2月10日、近建女主催の「第3回 くらしとすまいをみつめる」セミナーが日本綿業倶楽部（綿業会館）で開催されました。

今回は「地域にある気候風土に適応した住宅を造るために」というテーマで“パッシブデザインの基礎を知り、省エネルギーな暮らしを提案するために必要な設計手法と事例を学ぶ”ということでトヨタヤスシ建築設計事務所の豊田保之氏のお話をお聞きしました。

豊田保之氏は京都で代々続く左官職人の家にお生まれになった経歴から、土壁や漆喰など左官職を生かした家づくりを行いつつ、土壁の熱環境や省エネの調査・研究を続けておられます。

本セミナーでも「ならやまの家」を実例に伝統的な土塗り壁の普及と継続のための試みを紹介頂きました。



まず、日本の省エネルギー基準の背景と変遷ということで、エネルギー基本計画等における目標として2020年を一つの目途とし、新築規制として省エネ基準適合義務化へのこれからの日本の動きを確認。その動きの中で、気候風土適応住宅の認定ルールが策定され、その策定ルールにより「外皮基準の規定は適応しない」「一時エネルギー消費量基準については緩和」ということで気候風土住宅が認定されるということです。そこで外皮性能の基準及び一時エネルギーの基準のおさらいをし、気候風土適応住宅の認定プログラム考察の説明を受けました。

次にパッシブデザインの勘を養うというテーマで、

外皮断熱、自然風の利用、日射遮蔽手法及び日射熱利用（パッシブソーラー）の説明でそれを効果的に発揮させるためには集熱・断熱・蓄熱のバランスが重要であるとのことでした。さらに設計手法では「設計を進めるに当たり何を優先させるか？」ということで、集熱が最も設計力が必要とのこと、集熱・断熱・蓄熱の関係性をグラフで説明頂き、私にも良く理解できました。

以上の講義のあと実際の事例紹介ということで“ならやまの家”の取り組みのお話をいただきました。「伝統的な土塗り壁の普及」ではコストが高く断熱性の低さがネックになっていた竹小舞土壁を片面塗りでコストダウンをはかる、また家の壁をすべて土壁としない、土壁で耐力をとらない等工夫されているとのこと。とても参考になりました。

「土壁やPCMの蓄熱性を考慮した日射熱の試み」として主たる居室の集熱・断熱・蓄熱のバランスを確保し「土壁の厚みをかえて熱容量をアップする」等左官業に精通されていらっしゃる豊田氏ならではのご説明におおいに納得いたしました。

セミナーの後は見学の時間をとって頂き、職員の方のご説明を受けながら、館内を廻りました。

重要文化財でもある綿業会館は、故 岡常夫東洋紡績専務の遺言として寄付された100万円と関係業界からの寄付50万円を基に、昭和6年12月、日本綿業倶楽部の建物として建造されました。大阪の代表的建築家渡辺節氏が設計を担当し、ヘッドドラフトマンには村野藤吾氏が参画しました。

（ちなみに同じ年に現在の大阪城が再建され、その天守閣にかかった費用が47万円だったとのこと、この綿業会館がいかに贅を尽くしたかが窺えます。）落ち着いた外観からは想像しにくいのですが、内部はほんとうにクラブ建築らしくすばらしい装飾が施されています。それも各室ごとに異なる建築様式でまとめられています。

イタリアルネッサンス調の本館1階の玄関ホールはイタリアから輸入した大理石が重厚な雰囲気です。が、なんと言っても、もっとも豪華なのはジャコピアンスタイルの本館3階の談話室でしょう。

吹抜けの天井が壮大に広がり、その壁面の一角のタイルタペストリーは約1000枚のタイルが用いられその豪華さを物語っています。(タイルは京都泉涌寺の窯場で焼かれたものとのこと)

映画やドラマの撮影によく使われるとの説明もうなずけます。

その他の部屋も異なる建築様式で構成されていて、空調の吹出し口等の細部も工夫が施されていました。様式のみならず、冷暖房設備の工夫や建築面でも各部屋の窓にワイヤー入り耐火ガラスを使用するなど先駆的な試みがなされていました。窓ガラス1枚とカーテン1枚に被害を受けただけで大阪空襲の戦火をまぬがれたとのこと、他の船場オフィス街が壊滅的な被害を受け焼け野原となった中、綿業会館が力強く建っている写真が印象的でした。



(タイルタペストリーの前で)



(クィーン・アン・スタイルスタイルでまとめられた特別室の天井装飾)



私の好きな・・・杉板天井

岩城由里子

わたしは天井や軒裏などの見上げの素材に木を使うのが好きです。床や壁のように手や足で触れる場所ではありませんし、日々の暮らしの中でじっと天井を見ることもありませんが、空間の中では多くの面積を占めるため、空間の印象や質を大きく左右する要素だと思います。



木の中でも特に吉野杉の赤身の上小板が好きです。吉野材特有の美しい色艶は大変魅力があります。床には一等材も使いますが、天井は多くの場合は上小板にしています。天井にどれだけ杉板を使うか、梁は現しにするか、平天井にするか勾配天井にするか、和室天井は竿縁にするか、竿はどんな材でどんな寸法にするか、猿頬にするか、床の間の天井はどうするか等々、予算と材質を吟味し、完成を想像しながら天井伏図を描き進める時間は、実施図面を描く中でも楽しい時間です。



居間や食堂などの家族が集う空間だけでなく、主寝室には杉板の天井を張るようにしています。眠ってしまうと杉板の天井を見ることも無いのですが、表面積の多くに杉板を使うと睡眠の質が高まると考えています。



歴史的にみると、庶民の住居では天井を張ることが贅沢とされて床の間と同様に禁止されたり、課税の対象になっていた時代がありました。竿縁天井の場合、角材の竿縁は課税され竹や丸太だと非課税だったそうです。(柱も同様に角材のみ課税) 昔の民家では、座敷以外は天井が張られずに構造がそのまま現れているものが多く見られます。天井でハレとケの区分が分かりますが、天井が張られていないからといって質素かと言うとそうでも無く、とても立派な松や檜の梁が象徴的に掛けられており、当時は磨き込んで大事にしていたそうです。庶民の間でも、課税されるのを避けながら構造での贅沢を楽しんでいたことと思います。歴史も含め、さまざまな角度から天井について考えるのが楽しく思います。



竿縁天井の設計をすると、大工さんがとても喜んで仕事をしてくれます。私自身ももっと勉強しなければなりません。若手の大工さんに技能が継承される現場になるよう、一つの仕事の中にも和の天井を多く取り入れていきたいと考えています。

今後の事業予定

春の見学会
「吉野杉・吉野桧の建物訪問」のご案内

- 日 程 平成30年5月12日(土)
10:00~16:00
- 見 学 先
 1. 吉野杉の家 宿泊可能なコミュニティ交流の場
 2. 銘菓「吉野拾遺」松屋本店(創業天保13年) 和の空間のリニューアル例
 3. 三奇楼 料亭旅館の一部を残してゲストハウスに建替 昼食場所(お弁当)
 4. (株)櫻井 吉野産材集成材の製造販売会社 木造2階建て事務所、減圧乾燥機など
 5. 吉野製材工業協同組合 吉野材センター (現地解散)
- ※集合場所から分乗しますので、車の方はご協力をお願いします。
- 集合場所 「吉野杉の家」(吉野町飯貝624)
- 集合時間 午前9時45分 現地集合
- 《車の方》 河川敷の吉野町駐車場パーフェクト吉野に駐車。桜橋を渡って左へ
- 《電車の方》 近鉄大和上市駅から徒歩16分
- 参加費用 2000円(当日集金)
- 締め切り 平成30年4月27日(金)
- 申 込 先 奈良県建築士会事務局まで、FAX またはメールでお申込みください。
- FAX ; 0742-33-4333
- E-mail ; info@nara-kenchikushikai.or.jp

- 平成30年
- 5月10日(木) 一級建築士試験申込対面受付5/14まで
- 5月17日(木) 既存住宅状況調査技術者講習(新規)
- 5月23日(水) 平成30年度通常総会
- 6月6日(水) 既存住宅状況調査技術者講習(移行)
- 6月14日(木) 第一期定期講習(奈良県産業会館)
- 7月1日(日) 建築士の日/二級建築士試験(学科)
- 7月22日(日) 一級・木造建築士試験(学科)
- 7月25日(水) 既存住宅状況調査技術者講習(新規)

*** 編集後記 ****

二年間に渡りフープの編集に携わってきましたが、今号が最後となりました。皆さまにはお忙しい中、フープの編集に大変ご協力を賜りましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

思い起こせば平成28年に開催されました「全建女 奈良」の報告が最初のフープ編集でした。

この時は、「全建女 奈良」をまとめた夏秋合併号ということでしたので、多くの女性委員会の方々ともメールでやり取りをさせていただきました。そして、お寄せいただいた原稿から、奈良の建築物や庭、町並み、公園等々のいいところを再発見する機会になりました。編集をしながら、まるで全エキスカッションに参加したような気分になったことが思い出されます。その後も、毎号、建築に関するいい勉強をさせていただきました。

今後は、また一会員としてフープを楽しみたいと思いますし、新たな情報発信を期待しております！
二年間、本当にありがとうございました。

(奥 宏美)

